

本年度の最終回となる第8回（12月10日）は『被災から学ぶ』をテーマに、平成30年7月豪雨災害（西日本豪雨災害）で被災された安芸郡坂町の中村地区住民福祉協議会の正原（しょうはら）会長さんと岡村さんをお招きし、被災時の様子をまとめたDVDの視聴、経験談と復旧に向けた住民協の動きについて、第1回にも来ていただいた県立広島大学健康福祉学部人間福祉学科の手島講師とともに貴重なお話を伺いました。

会場には、町内会長さん、町内会の皆さんのほか、民生委員・児童委員や消防団第8分団員の皆さん、避難所運営にあたる浅原支部の市職員や市社会福祉協議会職員など総勢47人が集まりました。日頃からの準備や情報発信の大切さ、町内会単位での活動をどのように進めていくか、みんなで考え、話し合いました。

1 平成30年7月豪雨災害当日の記録映像の視聴と坂町中村地区での活動報告



坂町住民福祉協議会が作成されたDVD「平成30年（2018年）7月西日本豪雨災害記憶の伝承」を視聴しました。災害発生当日の異変（長く降り続く大雨、河川の増水と激流に伴って転がる石が鳴らす雷の音と聞き間違ふほどの轟音、異様な土の臭い、避難指示の発令など）の様子、災害発生時や避難時の被災者の行動やその背景にある考え方など、インタビューやドライブレコーダーの映像等により、生々しく伝わってきました。

「災害が発生していた当日は何もできなかった」と語られた正原さん。しかし、翌日からは、公民館（集会所）での炊き出しや消防団と協力して実施した中村地区全体の家屋・被災状況の確認、土砂撤去等のボランティア作業、また、一週間後から社会福祉協議会と連携して始めた一般ボランティアの受入れ、作業班の編成や道案内など、住民協としての役割について、時間を追ってわかりやすく解説していただきました。

今後の課題として、一人暮らし高齢者の避難を挙げられ、日頃から声をかけ合い、地域行事にも誘い合って来てもらうなど、平時からの人とのつながりやコミュニケーションが大切だと締めくくられました。

※上）坂町中村地区住民福祉協議会正原会長さん（右）と岡村さん（左）。

下）住民福祉協議会作成DVDの画面：流された大量の流木と冠水した道路の様子

2 参加者みんなて対話

6つのグループに分かれて、3つの話題（①普段の生活の中で困ったことがあれば誰に相談、発信していますか。②あなたは日頃どんな備えをしていますか。あさはらビジョン『防災・安心・安全』の1人でできること・やってみたいこと。は何かやってみましたか。③自分のところの町内会で何ができそうでしょうか。また、やってみたらよいでしょうか。）について話し合い、共有しました。



（保曽原・戸屋原グループ）



（猪之迫・冷川グループ）



（郷中央・郷北グループ）

【グループワークでの対話の紹介】

- ① … 家族、町内会長、市役所（支所）に相談している / 日頃から近所付き合いがあり、家庭の事情もよくわかっている
- ② … 防災意識は低い / 家の周りの溝をきれいにしておく / 川の清掃があまりできていない / 発電機がある（試運転したことがないので講習会をしてほしい） / ふとんは圧縮して保管している / 非常用持出袋を用意した / 火災報知機を確認した / 遠方の家族とも連絡を取るようにしたい
- ③ … 一人暮らし高齢者の現状と、誰が誰に声かけをするかを町内会で確認する / 3～4軒単位で避難する場所を決めておく / 井戸があるお宅の把握 / 避難所で発電機等の備品確認 / 避難訓練の開催と参加



(小田原グループ)



(向井原・郷南グループ)



(成ヶ原グループ)

【グループワークでの対話の紹介】

- ① … 近所の人や民生委員、町内会長、みんなが相談しやすい人に相談する / 顔を合わせる機会がよくあるのでつながりは深い / 連絡網で決まっている人 / 普段から話をするので困りごとはあまりない
- ② … 防災グッズを用意した / 停電の時に備えて、ガスボンベコンロ、石油ストーブ、懐中電灯、ヘッドライトを準備した / 電池やカップ麺を買いおいている
- ③ … 男性が中心になって炊き出し訓練をしてみる / 発電機があるお宅や横穴の把握 / 連絡網を使った練習 / ハザードマップを町内会の全員で見ながら講師の話を聴く出前トークを活用してみる

(正原会長への質疑応答) 高齢者が避難しない。いざというときにすぐ動けたのは？ ⇒ 一人暮らし高齢者の避難が課題だがあの人がいるから逃げないなど人間関係の問題も。避難訓練を続けること。日頃からの付き合いをもっておくということが大事。事前準備はしていないが、地域行事でメンバーの団結力があつたのがよかった。

3 『被災から学ぶ これからの地域づくり ～ 日常生活の場でどう考えるか ～ 』

むすびに、県立広島大学手島講師にお話しをしていただきました。「異常な雨の中で車で進むべきか行かないべきかというリアルな迷いの声、隣家へ屋根伝いに避難した人、そして被災してもなお住み慣れたまちで暮らしたいというお話など、大変貴重な映像を皆さんとともに見ることができ、私自身も学びになりました。坂町でも、一人暮らし高齢者の避難が課題とのことでしたが、避難を拒否する人にはプライドの問題もある。

他人が思うその人の体調とご自身が思う体調の認識のギャップなど、必ず本人なりの理由があるはず。誰が、どのタイミングで働きかけたらよいか。いくつかやってみることも大事。

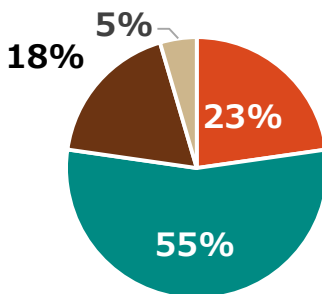
また、グループでの対話を聴いていると浅原地区は近隣の人同士の理解率が他よりも高いことがわかりました。地域の組織や民生委員さんとも連携して一人暮らし高齢者の把握と見守りも大切ですし、今回のように、定期的に防災のことを考えることも地域づくりとしてとても大切です。本当に体験談に勝る学びはないなと思いました。ただ、このような場に来ることができない方も多くおられると思います。福祉の専門職と連携して"孤立"を防ぐための取組も大切になります。今日は、私も皆さんと一緒に勉強させていただきました。」



4 参加者アンケートの結果

問) この事業に参加したことは、あなた自身の暮らしの質を高めることにつながると感じますか。

- とてもつながると思う
- つながると思う
- あまりつながらないと思う
- 無回答



問) この事業に参加する前と後でのお気持ちをお尋ねします。

- 浅原の今や未来をよくするためにできることをしたい。
… したい気持ちが前後で **22.7%上昇**

- 浅原の今や未来をよくするために必要な学習をしたい。
… 学習したい気持ちが前後で **18.2%上昇**
- 地域活動や社会的な活動に参加してみたい。
… 参加したい気持ちが前後で **18.2%上昇**

問) 気づきや感想

- ・ 自分自身の防災意識の低さを感じた。
- ・ 近所の人を知る事は大切。
- ・ 地域で連絡網の練習を行い見直しをする。
- ・ 災害で被害状況の減少を行うために近所の人との付き合い。避難訓練を実施したい。
- ・ 中村地区のDVDの話がとくによかった。
- ・ 記録(冊子や映像)に残すことが大切だと思った。
- ・ 一年を通じてこのような企画はとてもよかった。